

報告 九沖農研研究交流セミナーを開催しました

2020年11月4日(水)に、合志本所において九沖農研研究交流セミナーが開催されました。

このセミナーは、農業気象分野の第一人者である九州大学の廣田知良教授を講演者としてお迎えし、農業気象関連の研究紹介や意見交換をすること目的に開催されました。

当センターの農業気象グループ長からは「気象データを利用した栽培支援情報の作出と発信-他分野との連携-」、九州沖縄果樹研究調整監からは「カンキツ生産と気象-農業気象への期待-」の講演がありました。廣田教授からは、第8回プラチナ大賞優秀賞・技術革新賞を受賞した、北海道で雑草化して問題となっている野良イモの対策に向けた研究についてお話をいただき、併せて技術開発から社会実装に至った道のりをご紹介いただきました。基礎研究の重要

性、技術開発へのアイディアと実践、技術の普及戦略など実体験を交えた講演の後、総合討論で活発な意見交換が行われました。社会にインパクトを与えた研究を主導した廣田教授からお話をうかがい、研究交流ができた貴重な機会でした。



▲廣田教授による講演の様子
(Teams を併用して開催しました)

報告 カンキツ新技術・新品種研修を開催しました

農研機構では、カンキツ栽培・営農の基礎となる知識や技術を総合的かつ体系的に習得できるように、2年間で10回のカリキュラムを組み、カンキツ新技術・新品種研修を行っています。

2020年10月13日(火)～14日(水)に、第3回「気候温暖化に伴い発生が予想される諸問題と対応」、10月15日(木)～16日(金)に第4回「カンキツ生産におけるスマート農業技術の開発と産地への体系的な導入」をテーマに長崎県佐世保市で研修を行い、技術開発・普及協力者や民間の方から参加がありました。第3回の研修では当センターの九州沖縄果樹研究調整監から、気候温暖化シミュレーションによる果樹栽培適地の移動予想と懸念される果樹栽培上の問題を解説しました。また、それに対応するための技術シーズとして複雑な地形の中山間地域の農地環境を推定する技術やその情報を生産支援に活かすためのICTツール「農地環境推定システム」を紹介するとともに、天候の影響を軽減して高品質カンキツを生産する技術を紹介しました。第4回の研修では、メッ

シュ農業気象情報やAIの活用など農研機構がスマート農業実証プロジェクトで実施している研究とその成果について紹介しました。IoTで温湿度を精密に制御できる貯蔵庫の開発と最新の鮮度保持技術、気象から作物の病害発生の予測を行う技術、ロボット搭載型プレ選果システムなどの自動選果技術等についても紹介しました。

いずれの研修も受講者と活発な意見交換が行われ、有意義なものとなりました。



▲スマート農業実証圃での研修の様子

Topics

イベント 九州農政局消費者の部屋に出展しました

九州農政局消費者の部屋における特別展示に出展協力しました。九州農政局消費者の部屋は、熊本地方合同庁舎（熊本市）1階ロビーにあり、年間を通じて食料農業・農村に関する施策の情報提供や普及などを行い、消費者とのコミュニケーションを深める場です。

今回の特別展示のテーマ「地域に根ざした先導的品種育成・技術開発」に合わせて、九沖農研からはフランスパン加工適性のある小麦品種「さちかおり」、鮮やかな紫肉色が特徴の紫サツマイモ品種「ふくむらさき」、大豆品種「ふくあかね」と「黒招福」、さとうきび品種「はるのおうぎ」といった九沖農研が開発した品種や「二毛作水田向き水稻乾田直播栽培」技術についてのパネルやサンプルを展示しました。



◀ 大豆品種のサンプル
展示の様子



▲ この写真を実物大パネル(高さ約3m)で展示しました。

表彰・受賞

受賞報告

氏名	所属	名称	受賞年月日	受賞課題
曾根一純、遠藤みのり 沖村 誠、北谷恵美 木村貴志、藤田敏郎	園芸研究領域	園芸学会九州支部賞 技術賞	令和2年9月14日	省力的な栽培が可能で、大果で日持ち性に優れた多収性イチゴ品種「恋みのり」
加藤直樹	畜産草地研究領域	日本暖地畜産学会賞	令和2年10月24日	不耕起播種を核とした九州における飼料用トウモロコシ二期作体系の安定栽培技術の開発

九沖農研ニュース NO.65 2021.1



編集・発行／国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構) 九州沖縄農業研究センター
住所／〒861-1192 熊本県合志市須屋2421 ☎096-242-7530
<http://www.naro.affrc.go.jp/laboratory/karc/>

ISSN 2435-2276